

静岡市スマートシティ推進協議会 設立総会

2023年3月15日（水） 14:00～16:00

Smart City Shizuoka

～ 市民(ひと)が輝き、都市(まち)が輝く ～



時間	アジェンダ	登壇者
第一部		
14:00～14:05	開会挨拶	静岡市 副市長 大長 義之
14:05～14:20	静岡市におけるスマートシティの取り組み方針 及び協議会の設立趣旨	静岡市企画局デジタル化推進課
14:20～14:30	写真撮影	
14:30～15:00	審議事項 規約の承認 / 役員・運営委員の選任 報告事項 令和5年度実証事業内容の報告	
15:00～15:10	休憩	
第二部		
15:10～15:50	基調講演 ～建築・都市におけるAIとビッグデータの可能性～	東京大学 先端科学技術研究センター 特任准教授 吉村 有司様
15:50～16:00	閉会	

1. 開会の挨拶

静岡市 副市長 大長 義之

2. 静岡市におけるスマートシティの取り組み方針及び 協議会の設立趣旨

静岡市 企画局 デジタル化推進課

内閣府で閣議決定した「骨太2022」のⅡ. 新しい資本主義に向けた改革において、地域活性化の推進施策としてデジタル田園都市国家構想が掲げられている



デジタル田園都市国家構想

DIGIDEN

全国どこでも誰もが
便利で快適に
暮らせる社会を目指して



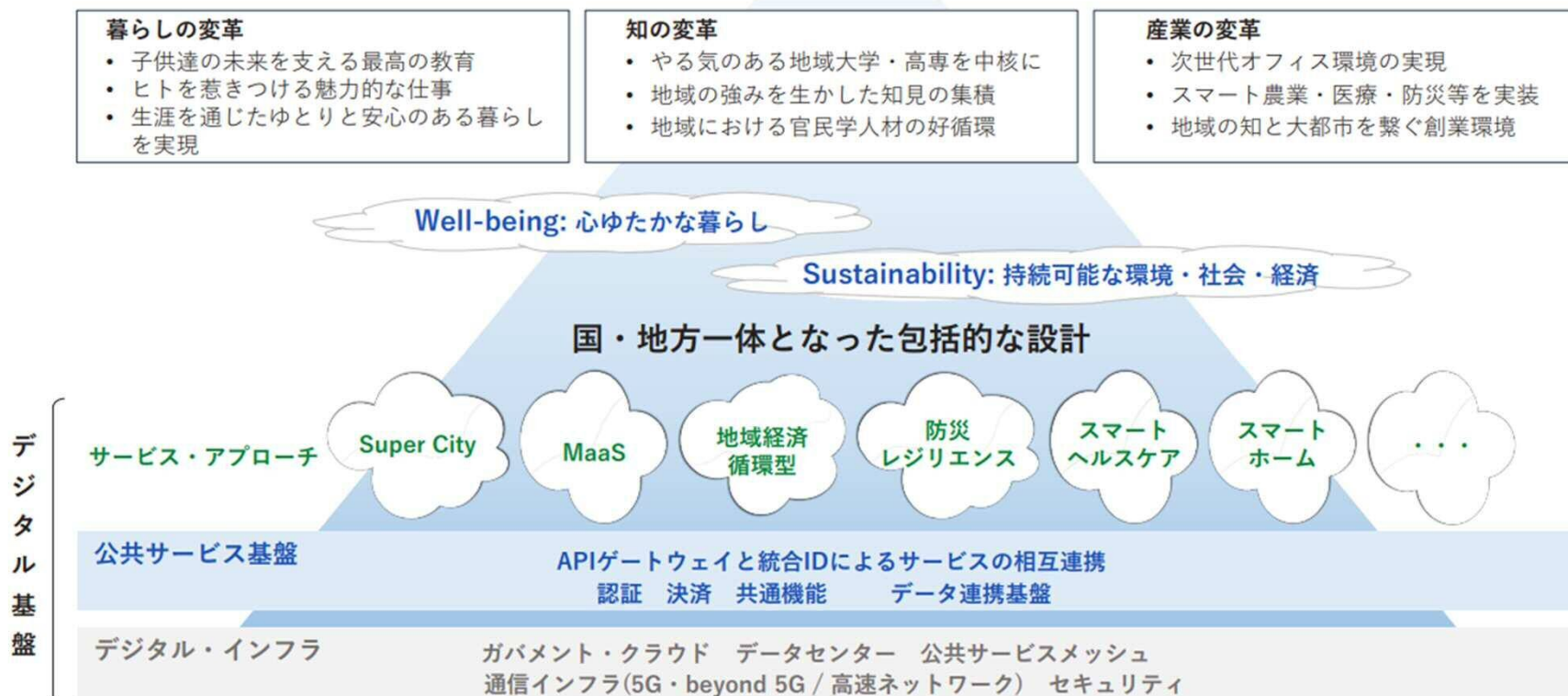
現在、地方は、人口減少や少子高齢化、産業空洞化など様々な社会課題に直面しています。デジタルは、こうした社会課題を解決するための鍵であり、新しい付加価値を生み出す源泉です。デジタル田園都市国家構想は、デジタルの力で、地方の個性を活かしながら社会課題の解決と魅力の向上を図ります。そして、「地方に都市の利便性を、都市に地方の豊かさを」を実現して、全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会を目指します。

(出所：内閣官房 デジタル田園都市国家構想HP)

デジタル田園都市国家構想では、地方の魅力をそのままに、デジタルの力で、「心ゆたかな暮らし」と「持続可能な環境・社会・経済」の実現を目指す

- 地域の「暮らしや社会」、「教育や研究開発」、「産業や経済」をデジタル基盤の力により変革し、
- 「大都市の利便性」と「地域の豊かさ」を融合した「デジタル田園都市」を構築。
- 「心ゆたかな暮らし」(Well-being)と「持続可能な環境・社会・経済」(Sustainability)を実現。

地方の魅力をそのままに、都市に負けない利便性と可能性を



静岡市では「誰もがデジタル化による豊かさを享受できる地域社会の実現」を目指し、スマートシティに取り組めます

経済社会の変化

人口減少、少子高齢化
大都市への一極集中

価値観・行動の変化

デジタル化の進展
リモートワーク、新たな働き方
SDGs、Well-being

国の政策動向

デジタル田園都市国家構想
Society5.0、DXの推進

誰もがデジタル化による豊かさを享受できる地域社会の実現

～市民(ひと)が輝き、都市(まち)が輝く、デジタル技術やデータを活用したまちづくり～

QOLの向上

市民(ひと)が輝く

静岡市らしさの追求

都市(まち)が輝く

新たな価値創出

デジタル活用、分野間連携

静岡市では、令和4年度にビジョン策定と推進主体設立を実施

グランドデザイン

- スマートシティの実現には、産官学民が長期的ゴールを共有しながら、立場の違いを超えて共感・共創することが重要
- スマートシティ推進に向けたコアとなる
静岡市スマートシティビジョンを本日公開

推進主体

- スマートシティの成否を分けるのは、スマートシティの推進にコミットできる推進主体の存在
 - 今後の静岡市のスマートシティ推進に関する企画立案と推進を牽引する推進主体として
静岡市スマートシティ推進協議会を本日設立

ソーシャルファイナンス

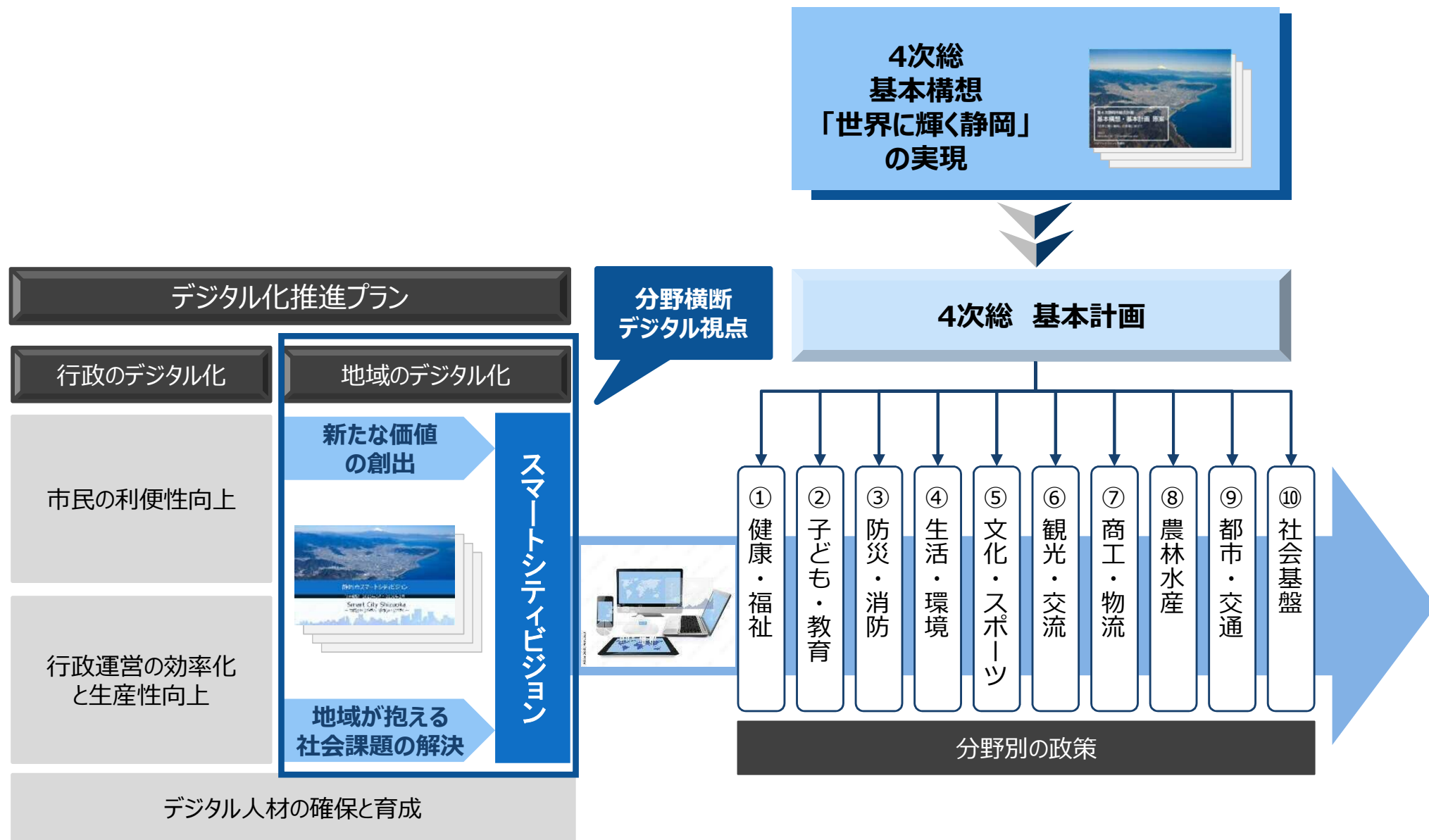
- 経済的価値と社会的価値の双方を捉えつつ、行政・民間企業はもちろんのこと、多様なステークホルダーから資金を調達する仕組みが必要
- 必要資金の確保に加え、住民に対して、資金負担にともなうまちづくりへの当事者意識やインセンティブを創出することも検討

テクノロジー

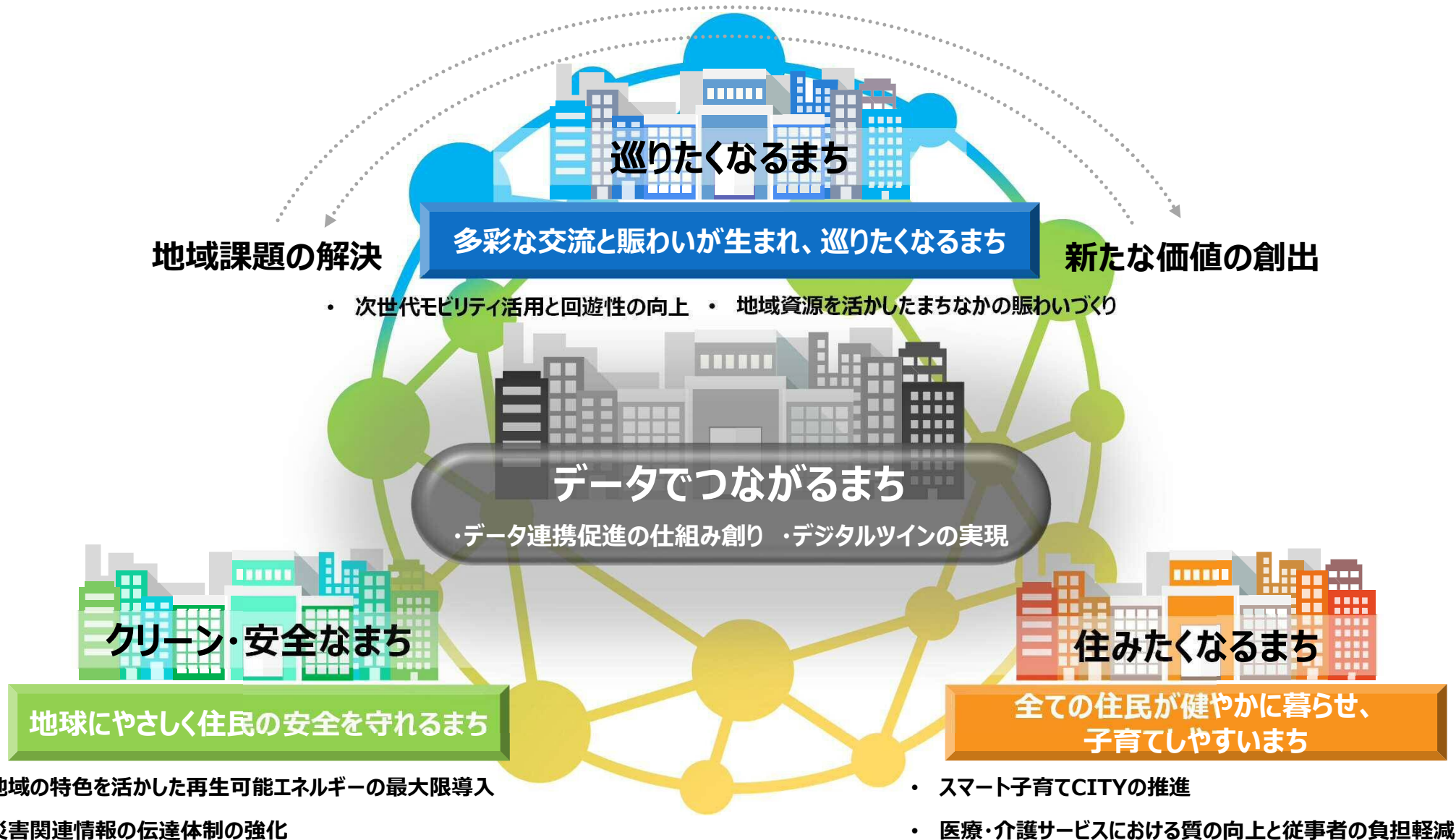
- テクノロジーを手段として有効活用しながら、静岡市で取り組むべき重点分野に対する課題解決や新たな価値創出に挑戦する
- データの取扱いにおいては、セキュリティ、プライバシー保護を確保した上で住民が抱く不安を払拭し、信頼関係を構築することが必要

市民
(ひと)
中心

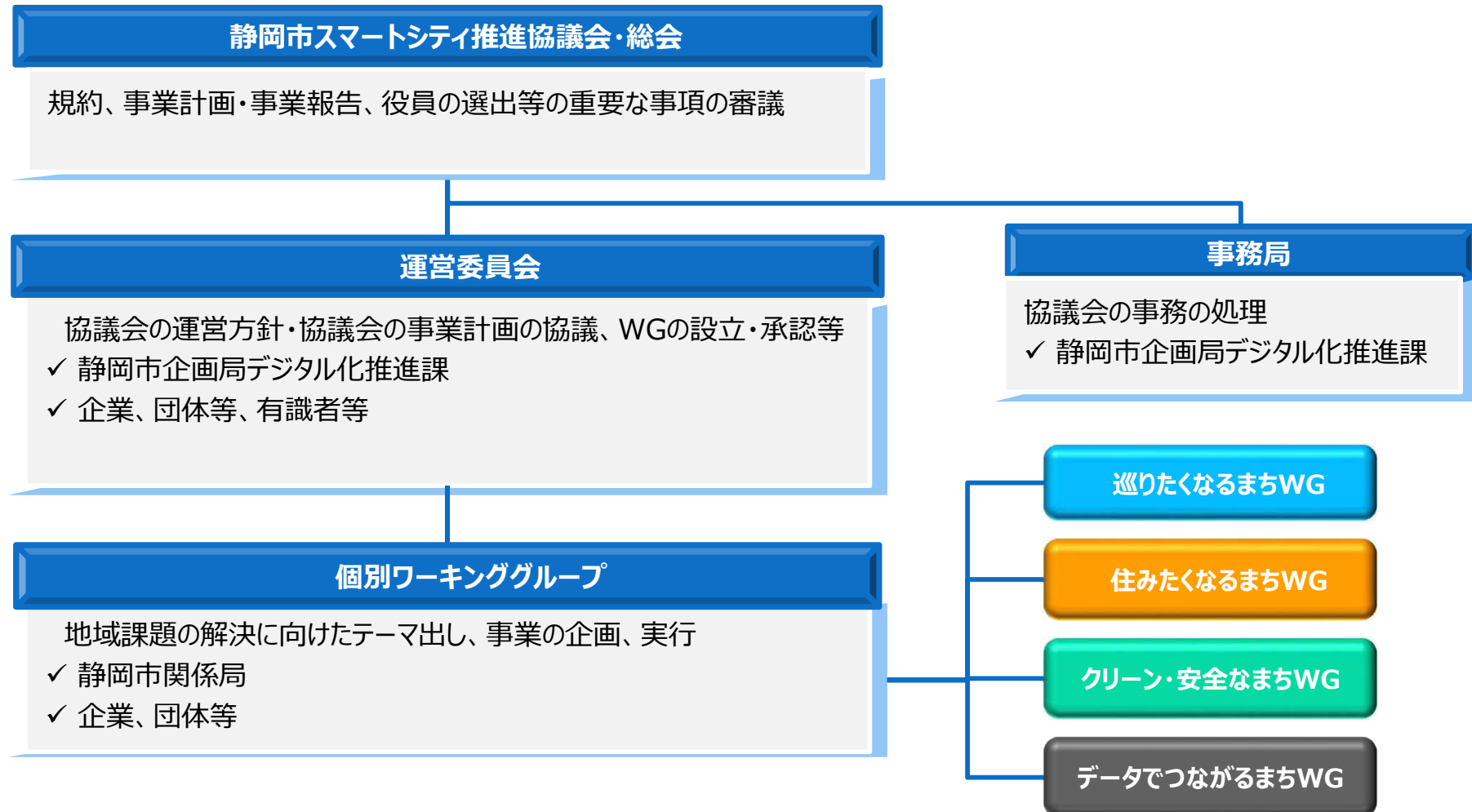
静岡市スマートシティビジョンは、静岡市デジタル化推進プランにおける地域のデジタル化を新たな価値創出と社会課題の解決の両面から推進するもの



「市民（ひと）中心」、「静岡市らしさ」、「分野間連携・全体最適」の3点を軸に、スマートシティを推進するための重点分野を決定



スマートシティの推進主体として「静岡市スマートシティ推進協議会」を設立 総会、運営委員会、個別ワーキンググループ、事務局から構成される



静岡市スマートシティ推進協議会の各機能における役割は、以下の通り

総会	<ul style="list-style-type: none">✓ 規約の制定及び改廃に関する決議✓ 事業計画及び事業報告に関する決議✓ 役員・運営委員の選出に関する決議✓ その他重要な事項に関する決議
運営委員会	<ul style="list-style-type: none">✓ 協議会の運営方針及び運営に関する協議・決定✓ 総会に付議する事業計画及び事業報告に関する承認✓ 新たに協議会に入会しようとする者の承認✓ 分科会の設立に関する承認
個別ワーキンググループ^o	<ul style="list-style-type: none">✓ 事業案の企画・検討✓ 事業の進捗管理、及び、総会・運営委員会への報告（R5事業については検討中）✓ 各分科会の運営に必要な事項に関する検討
静岡市 (事務局含む)	<ul style="list-style-type: none">✓ 協議会会員の公募ルール案の策定、公募に関する事務手続✓ R5事業案に関する仕様案の検討、公募・採択企業の決定、事業計画の策定✓ 総会、運営委員会、個別ワーキンググループの運営・事務手続✓ 次年度事業の予算要求
役員	<ul style="list-style-type: none">✓ 静岡市スマートシティ協議会会長：大長副市長✓ 静岡市スマートシティ協議会副会長兼運営委員長：澤山デジタル統括監

3. 写真撮影

4. 審議事項

第1号議案

✓静岡市スマートシティ推進協議会の規約の承認

第2号議案

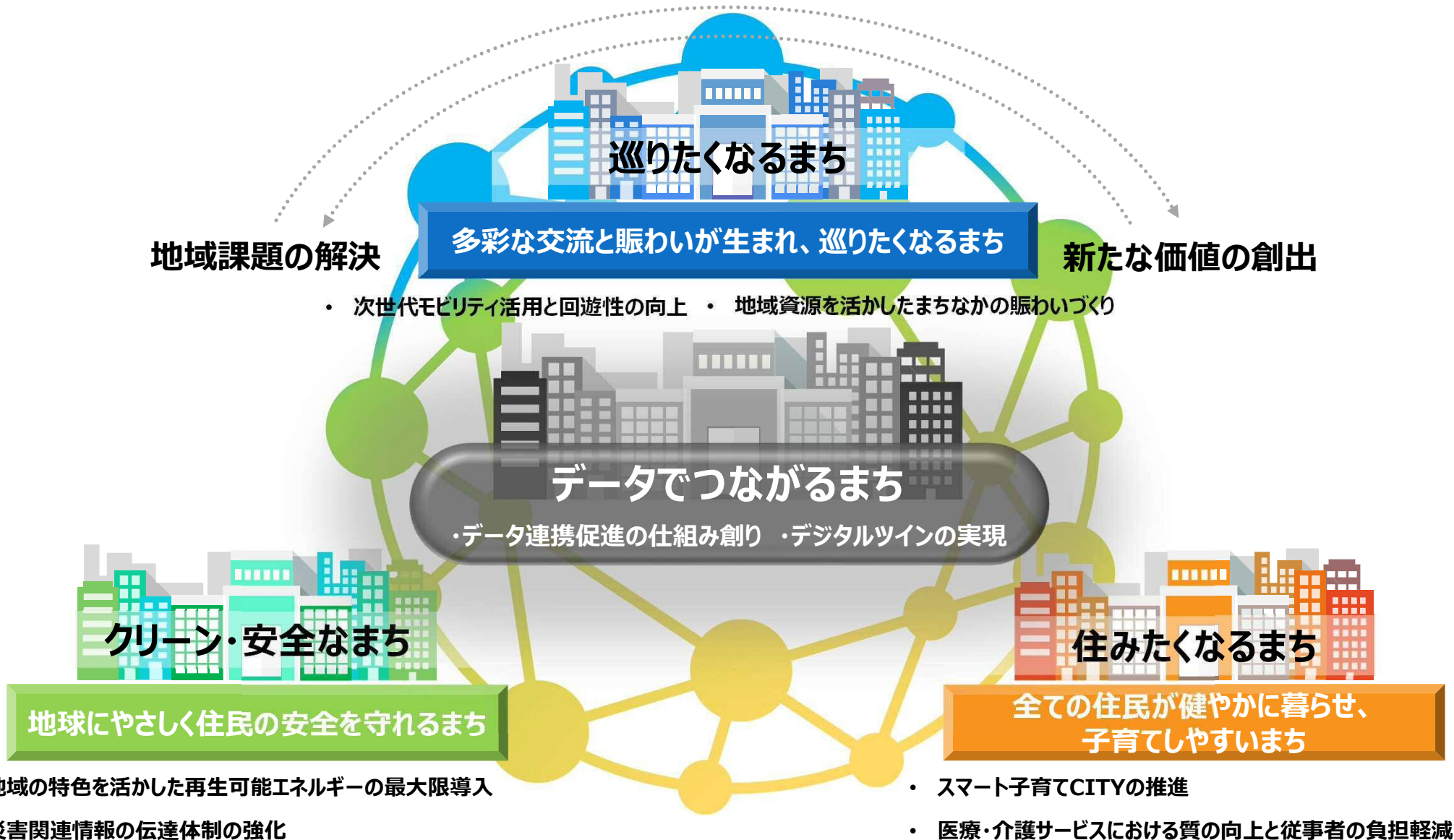
✓静岡市スマートシティ推進協議会の役員・運営委員の選任

5. 報告事項

報告事項

✓令和5年スマートシティ実証事業内容の報告

「市民（ひと）中心」、「静岡市らしさ」、「分野間連携・全体最適」の3点を軸に、スマートシティを推進するための重点分野を決定





■ 地域が抱える行政課題

- ✓ 新型コロナ収束後の観光施策においては、行動制限緩和を見据え、国内外からの誘客を検討する必要がある。
- ✓ デジタル時代の国内外からの誘客の促進においては、データに基づいたターゲティングと施策の実施（EBPM）が求められる。

（仮説）歴史博物館や大河ドラマ館など多くの来訪者が見込まれる中で、大河ドラマ終了後のより一層な誘客や魅力向上を目的として、中心市街地の周遊を促し、賑わいの増加に寄与していく。

■ 実証テーマ

来訪者属性のデータ収集と分析によるターゲティングとデータに基づく効果的な周遊観光施策の実施

■ 実証概要（案）

■ 対象エリア 静岡市歴史博物館～駿府城公園～浅間通り～浅間神社周辺

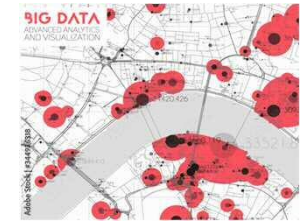
(1) データの取得による来訪者の把握・検証

官民の観光事業に係る団体が保有するデータを持ち寄り、来訪者の属性や行動様式等について把握する
〈想定する分析データ〉
人流データ（スマホのプローブデータ等）
宿泊客データ、観光施設入込客数データ他
※民間データ提供可否も検証の1つとする。



(2) 来訪者の分析による潜在的ニーズの把握とターゲティング

収集したデータから来訪者の傾向や本市の観光施策の弱点、成長点を解析、ターゲティングを仮設立て



(3) ターゲティングに基づいた周遊促進施策の実施

ターゲティング仮説に基づき最適と思われる周遊施策を実施



(4) データに基づく周遊促進施策の効果検証

再度収集したデータから来訪者の傾向を確認、施策の効果を検証。増加していればEBPMのモデルケースとして他エリアへ展開。



■ 使用する技術やデータ

- ・人流解析データ
- ・来訪者属性データ

■ 体制

- ・市（観光・MICE推進課、交通政策課、市街地整備課、道路計画課、商業労政課）
- ・するが企画観光局 ・観光事業者、IT事業者

■ スケジュール

1Q	2Q	3Q	4Q
計画策定	データ分析	施策実施	効果測定
			報告



■ 地域が抱える行政課題

✓ 山間地域の人口減少等に伴い、現在の医療提供体制を安定的に維持することが困難になる恐れがあり、地域医療の確保に向けた取り組みが必要である

（仮説）デジタル技術を活用した遠隔医療の実施により、居住地を問わずどこでも安心して医療を受けられる地域医療体制をつくる。

■ 実証テーマ

山間地域におけるデジタル技術を活用した遠隔医療実証事業

■ 実証概要（案）

■ 対象エリア

市内山間地域（井川・梅ヶ島等）

(1) デジタル技術を活用した遠隔医療の実施

離れた場所にいる患者と医師とをWEB上でつなぎ、問診や簡易な検査等を行うオンライン診療を実施する。

・山間地診療所と市街地の医療機関とをつないだ オンライン診療の実証

山間地診療所にモニター等の機器を設置し、医師がいない日の患者の診療を、市街地の医療機関の医師がオンラインで行う。

・移動診療車を用いたオンライン診療の実証

看護師が乗った移動診療車が山間地域を巡回し、診療車内の患者の診療を、診療所の医師がオンラインで行う。

(2) 実施結果に基づく効果検証

実施結果の効果を検証し、今後の山間地医療のあり方を検討しながら、実装につなげる。



※ 上記はイメージであり、事業者ヒアリングを引き続き実施し実施方法を検討していく。

■ 使用する技術やデータ

・オンライン診療に係るデジタル技術

■ 体制

- ・市（保健衛生医療課、保険年金管理課、中山間地振興課、葵区地域総務課）
- ・医療事業者、IT事業者

■ スケジュール

1Q	2Q	3Q	4Q
計画策定	施策実施	効果測定	報告



■ 地域が抱える行政課題

- ✓大雨による河川の氾濫やがけ崩れ等、近年の異常気象の多発による大規模災害に伴う被害の抑制が求められる
- ✓災害が発生した際の情報収集の効率化等、適切な状況把握や災害対応を実行できる体制を構築する必要がある

（仮説）「静岡型災害時総合情報サイト」の構築までの1年程度の期間の間に、デジタル技術を活用した災害時の被害情報の収集・整理と迅速な危機管理対応を検証するために、R6の災害総合情報サイトのリリースに先行して機能の実証を行う。

■ 実証テーマ

災害時におけるSNSやインターネットを活用した市民からの情報収集実証事業

■ 実証概要（案）

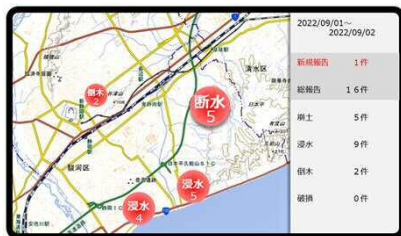
(1) LINE投稿とAI分析による災害情報収集・整理

災害時、もしくは避難訓練時に職員・市民がLINEで被害情報を連絡、AIで内容を分析し情報を集約



(3) 情報収集手段としての有効性の検証

収集し整理された情報の精度や量、即時性、分かりやすさ、使いやすさ等から各手段の有効性を評価



■ 対象エリア 市内全域

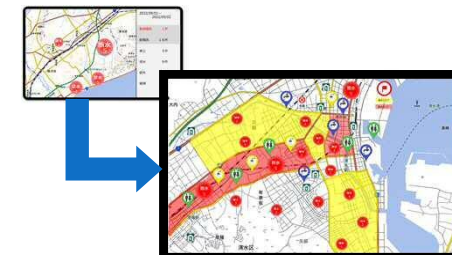
(2) SNSのAI分析による災害情報収集・整理

災害時におけるTwitterやFacebook等のSNSへの災害関連情報の投稿をAIが分析、集約



(4) 災害時総合情報サイト（SUNPUシステム）への実装

有効性を評価した後、令和6年度のSUNPUシステムの改修に向け、機能要件を定義、SUNPUシステムの情報収集機能の仕様に採用



■ 使用する技術やデータ

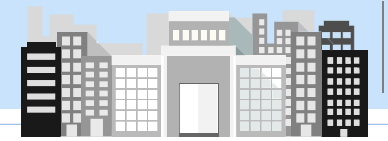
- ・SNSデータ
- ・画像データ
- ・位置情報データ

■ 体制

- ・市（危機管理総室）
- ・防災IT事業者

■ スケジュール

1Q	2Q	3Q	4Q
計画策定	施策実施	効果検証	報告



■ 地域が抱える行政課題

✓ 地域課題解決や行政サービスの効率化においては、デジタル技術を活用したオープンイノベーション※₁が有効であり、その環境として3D都市モデルの構築や点群データの取得、オープンデータ化、デジタル人材育成等が急務となっている。

※₁オープンイノベーション：地方自治体だけでなく、民間企業、大学、社会起業家等の異業種、異分野が持つ技術やアイデア、サービス、ノウハウ、データ、知識などを組み合わせ、革新的な課題解決、地域活性化、行政改革、サービス開発、組織改革、プロセス改善等につなげるイノベーションの方法論

（仮説）行政が3D都市モデルや点群データ等の取得、オープンデータ化、人材育成等の環境整備を進める事で、デジタルツインによる課題解決の効率化、都市計画のシミュレーションによる合意形成の高度化、静岡市をフィールドとしたバーチャル学習コンテンツの制作等によるまちづくりへの関係人口創出を目指す。

■ 実証テーマ

デジタル技術を活用したオープンイノベーションの創出とデジタル人材の育成

■ 実証概要（案）

■ 対象エリア 静岡市内（点群データのエリア内）

(1) データの整備

新たに点群データ等を取得し、利便性の高いデータを整備する。

- ・利便性が高いデータの種別及び形式の検討
- ・市街地など必要な3次元点群データ取得
- ・取得したデータの加工及び編集



(2) オープンデータの公開

利活用可能な形式でオープンデータとしてホームページ上に公開する。

- ・プラットフォームの構築
- ・利活用可能なデータの公開
(イベントや各種サービス等の利用想定)



(3) データを活用した施策の実施

① 地域課題解決、業務効率化に向けた施策

3D都市モデルを活用したシミュレーションによる合意形成の高度化、静岡市をフィールドとしたバーチャル学習コンテンツ等の創出により、市民がまちへ興味を持つ動機付けを行い、まちづくりへの関係人口創出を目指す。

- ・専門学校などの授業への活用（ゲームや動画作成）

※想定事例：静岡産業技術専門学校の卒業制作での活用及びe-スポーツイベントとのコラボレーション



② 人材育成に向けた施策

デジタル人材の育成に向けて、若年層向けに3DCGやVFXなど、データ活用手法を会得するための教育コンテンツの提供やイベントを開催する。

- ・小学生向けにプログラミング学習の体験型ワークショップやコンテスト、中高大学生向けに3DCG活用手法のためのオンラインコンテンツの配信やワークショップの開催

※他自治体事例：3D都市モデル×マイクラフトプロジェクト（札幌市）
クリエイティブ人材育成のためのコンテンツ配信（天草市）



■ 使用する技術やデータ

- ・3D都市モデル（PLATEAU）
- ・3次元点群データ（市保有の静岡駅北口や県保有のVIRTUAL SHIZUOKA）

■ 体制

- ・市（企画局、都市局など）
- ・大学、専門学校、IT事業者、広告代理店など

■ スケジュール

1Q	2Q	3Q	4Q
調査 検討	データ取得 オープンデータ化	施策実施	効果 検証
			報告

6. 基調講演

～建築・都市におけるAIとビッグデータの可能性～

東京大学 先端科学技術研究センター
特任准教授 吉村 有司様

7. 閉会